

# 2026エリートユースAコーチ養成講習会

JFA EliteYouth-A License

2026/02/23

**Japan Football Association**

## エリートユースのあるべき姿



2050年までに日本がワールドカップを掲げるために、さらなる競技力の向上が必要です。

競技力の向上には数多くのエリート選手を意図的に育成するエリートユースの存在が極めて重要になります。エリートユースでは個別育成に特化し、16歳や17歳でプロデビューする選手、10代でA代表に選出される選手、プロサッカー選手として活躍できる選手など、それぞれの役割を果たし、周囲をリードし、サポートし、リスペクトできる選手を継続的に輩出することを目指します。その結果、一人でも多くの社会に貢献できる人間を輩出し、プロサッカー選手をはじめとした様々な職業において活躍することで、それぞれの人生における活動を通じて、国民の幸せに貢献することを目指します。

エリートユースにおける選手育成には5つの特徴（個別性、計画性、包括性、専門性、独自性）と3つの環境（セーフガーディング、指導者育成プログラム、ゲームプログラム）が求められます。

### 個別性

選手、指導者それぞれに応じた成長の機会があること

### 計画性

選手の最終形（理想）をイメージし計画的にそこへ向かうこと

### 包括性

エリート選手に求められる全ての要素について取り組むこと

### 専門性

選手個々に対して多くの専門性を持ったスタッフが関わること

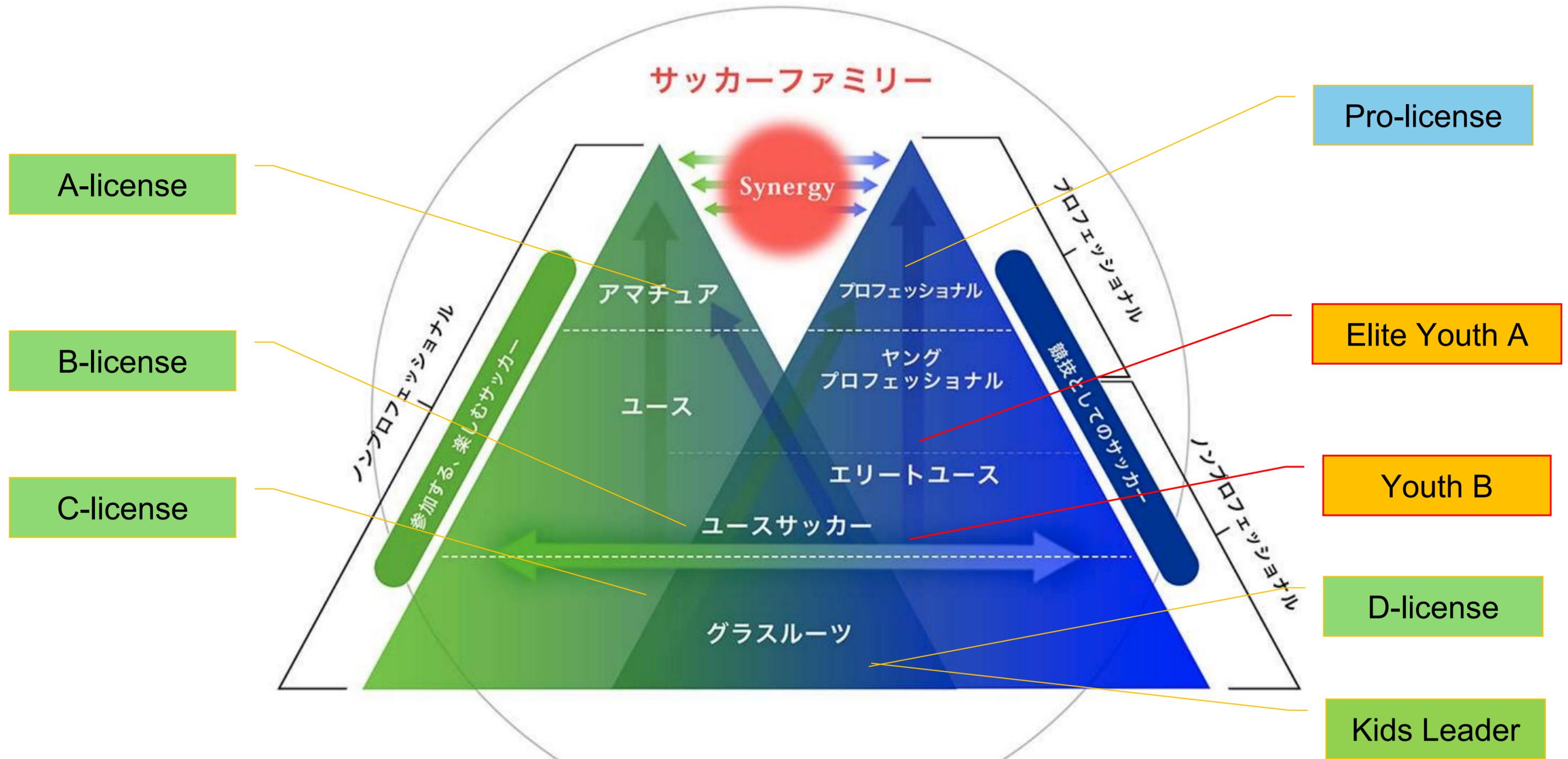
### 独自性

環境に応じた特徴のある選手育成が行われていること

### 日本の目指す エリートユース選手

- 16歳、17歳でプロデビューできる選手
- 生涯、サッカーを楽しむことができる選手
- 10代でA代表に選出される選手
- サッカー界のみならず社会に貢献できる選手
- プロサッカー選手として活躍できる選手

# ダブルピラミッドと指導者ライセンス



# エリートユースA 養成目的

---

ユース・ポストユース年代の指導のリーダーとなる人材を養成する。同時に、この年代の指導のスペシャリストの育成と、地域でのゲーム・トレーニング環境を整備・充実させるための諸活動において、リーダー的立場に立って活動ができる人材を養成することを目的とする。

# エリートユースAコーチ 養成目標

---

エリートユースからプロに移行する将来のプロ選手を、思春期から成人期までの期間にどのように育成し指導するかを明確に理解し、以下の4つの分野で能力を発揮する：

1. **育成コーチ**：ユース年代のコーチとしての役割を理解し、エリート選手がプロ選手になるために、  
スタッフと協働して選手の成長をサポートする
2. **選手とチーム**：選手個人とチーム全体に、プロの世界の要求に対してクラブのタレント育成プランに従って準備・活動すること
3. **トレーニング環境**：ハイパフォーマンストレーニングのあらゆる要素を理解し、クラブの育成フィロソフィーに基づいたトレーニングの準備/実施により選手とチームが成長する環境作り
4. **ゲーム**：エリートユースレベルの試合におけるチームの準備とコーチング  
試合での選手個々とチームのパフォーマンスの分析と改善

- 現場に即した学び (Reality-based learning)
- 主体的な学び (Adult learning)
- 学習者中心 (Learner's centered)



# コーススケジュール

4 / 6 (月)  
プレコース  
事前課題

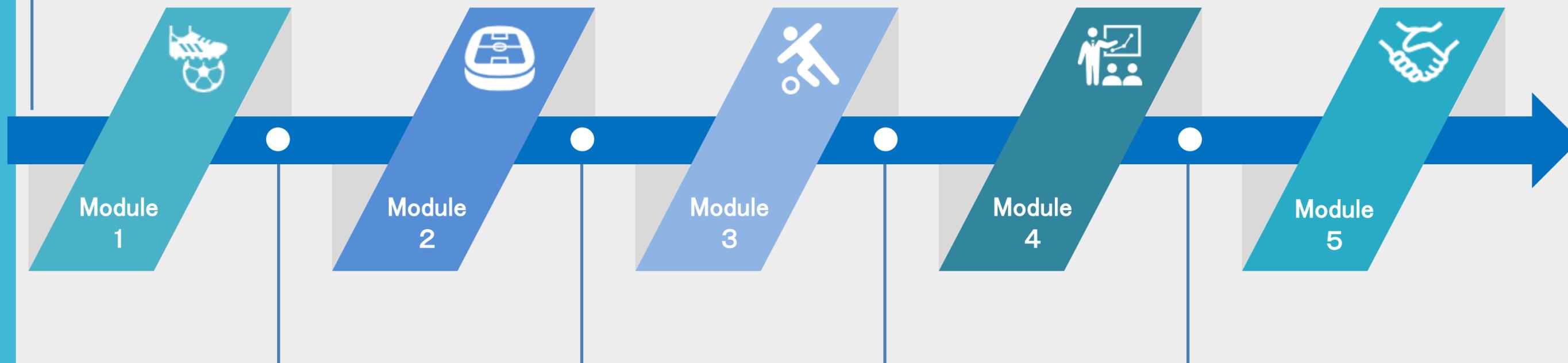
4/20(月)~22(水)  
千葉:夢フィールド  
タレント・IDP

6/2(火)~5(金)  
福島:Jヴィレッジ  
国際大会分析

8/31(月)~9/2(水)  
千葉:夢フィールド  
トレーニング  
コミュニケーション

10/26(月)~28(水)  
千葉:夢フィールド  
フィジカル  
ピリオダイゼーション

12/7(月)~9(水)  
東京:JFAハウス  
マネジメント  
心理



間の学習(クラブワーク、Jアカデミー視察、課題)

※各モジュールで取り上げるテーマ、内容に関しては変更になる場合があります。

## トピック

項目	トピック
① フィロソフィ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エリートユースサッカーにおける育成コーチの役割の理解</li> <li>・クラブフィロソフィと育成計画に沿った活動</li> <li>・ポジティブな選手育成環境の構築とコーチング行動の実践</li> </ul>
② 選手育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発達段階／年齢・ポジション別の特性(プレーヤープロフィール)</li> <li>・個別育成の重要性(IDP)</li> <li>・生活習慣(栄養・水分補給・睡眠など)</li> </ul>
③ サッカー理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試合分析(チームと選手)</li> <li>・様々な戦術システムとプレースタイル</li> <li>・ハイパフォーマンスの環境</li> </ul>
④ サッカー指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選手の年齢や能力に応じた指導スタイル</li> <li>・選手やチームをポジティブな姿勢で指導する(コーチングフィロソフィ)</li> </ul>
⑤ トレーニング	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲームに向けたトレーニングセッション</li> <li>・プレーモデルの作成・実施・検証</li> <li>・ピリオダイゼーション(コーチングカリキュラムの計画)</li> <li>・チーム及び選手個々の目標設定と実践(IDP)</li> <li>・スタッフと連携したハイパフォーマンス環境の構築</li> </ul>
⑥ マネジメント	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブスタッフとの連携、サポート</li> <li>・試合時のオーガナイズ</li> <li>・保護者、スカウト、関係者との対応(包括的な関係性の構築)</li> </ul>
⑦ 現場実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラブワーク(分析、プランニング、トレーニング、振り返り)</li> </ul>

※上記は参考として。  
今年度の講義や課題に関しては現在、準備中。